

献 辞

萩原伸次郎教授は、平成 25 年 3 月末日をもって横浜国立大学を定年退職されました。ここに、『エコノミア』第 64 巻第 1 号を先生に捧げ、30 年以上の長きにわたる経済学部及び横浜経済学会へのご貢献に対する感謝の気持ちを表したいと思います。

萩原先生は、昭和 45 年 3 月に福島大学経済学部をご卒業され、東京大学大学院経済学研究科博士課程を単位修得・退学の後、北海学園大学経済学部専任講師・助教授を経て、昭和 53 年 4 月に本学部へ助教授として着任されました。平成元年には教授に昇任され、その後、大学院国際社会科学府研究科へ配置換えの期間を含め、世界経済論などの講義や演習を通じ、経済学部だけでなく大学院においても長年にわたり教育に取り組み、責任指導教員として 12 名の博士号取得者を世に送り出されるなど多数の優れた人材を輩出されました。

教育面で特筆すべきことに、先生の国際教育へのご貢献があります。学部の欧州英語討論会に学生を引率されたりしておられましたが、特に、大学院博士課程前期で「英語による特別コース」（世界銀行公共政策と租税プログラム）が開設されてから、長きにわたって教育に当たり、同コースのディレクターも務められました。本年度から、本学の経済学系大学院は博士前期・後期一貫の国際社会科学府経済学専攻に改組され、英語で博士の学位が取得できるプログラムもスタートしたところですが、今日のこうした国際化は、萩原先生のご尽力が礎となって初めて可能となったものです。

大学の管理運営においても多大な貢献を果たされました。特に、平成 12・13 年度における経済学部長を始めとして、教育研究評議会評議員、大学院国際社会科学府研究科博士課程後期国際開発専攻長を歴任されました。

研究面では、現代アメリカ経済の分析を歴史的観点から進め、『アメリカ経済政策史』（有斐閣）など多くの成果を挙げられました。なかでも、『世界経済と企業行動』（大月書店）で世界政治経済学会賞を受賞されました。米国のラジカル・エコノミクス研究者ともご親交がある国際的な研究と時事問題への積極的発言でも知られています。更に、平成 14 年から毎年、米国大統領経済諮問委員会年次報告を『米国経済白書』（「エコノミスト」臨時増刊、毎日新聞社）として翻訳・刊行する事業に監訳者として取り組み、社会的に大きな貢献を果たされました。学会活動でも、政治経済学・経済史学会（旧土地制度史学会）で理事・監事、経済理論学会で幹事を務めておられます。

長年にわたり経済学部の教育研究や大学運営への先生のご貢献には、このように極めて大きなものがありました。改めて感謝の念を深めるとともに、先生が新たな場で一層のご活躍をなさることを心からご祈念申し上げます。

平成 25 年 5 月

横浜経済学会長（横浜国立大学経済学部長）

富浦 英一